

15. 仙腸関節の骨シンチグラフィ所見：放射線治療後の変化

今岡いずみ 大坪 芳和 中村 恩
杉村 和朗 (島根医大・放)

放射線治療後の仙腸関節の変化は骨転移との鑑別上重要である。放射線照射後の仙腸関節の insufficiency fracture の3例を報告する。重症例では腰痛を訴え、骨シンチグラフィでのH型集積と、CTでのfractureが明瞭である。MRIではT1強調像の低信号とT2強調像の高信号域として認める。無症状で偶然発見された例では病側への骨シンチグラフィの高集積、MRI上T1、T2強調像での低信号域を認める。数か月単位の経過観察にてT2強調画像での高信号化が出現、さらに再度低信号化する。Gdによる造影域はT2強調像での高信号域より早期に出現する。その後長期間残存し、より広汎な傾向がある。骨シンチグラフィで仙腸関節への高集積を認める場合CT、MRIを加味した評価が求められる。

16. 超音波を用いた骨質測定について

飯尾 篤 西尾 秀博 川本 晋
竹下 賢治 (愛媛県厚生連健診セ)

一般人の踵骨の骨質の特性をみるため、15-90歳の健常男性235人、女性9,384人をLunar社製Achillesで測定した。超音波減衰率(BUA)、速度(SOS)、両者を標準化した和Stiffness(ST)は、女性では15-17歳で最高値を示し、各々 116 ± 9 、 1572 ± 23 、 97 ± 11 、男性ではSOSとSTは15-16歳、BUAは22-29歳で最高値を示し、各々 1590 ± 20 、 107 ± 11 、 124 ± 14 であった。一般女性179人において同時に測定したSTと腰椎の骨密度との相関係数は0.63であった。STの加齢による減少率は女性では51-55歳の間が1.0%/年と最大であった。閉経後の減少率は最初の4年間で最も大きく1.8%/年であった。また上記3パラメータと身長、体重、肥満度との間には、SOSと肥満度を除き有意な正相関が認められ、特にBUAと身長、体重との相関性が強かった。

17. Sarcoidosis の⁶⁷Ga シンチグラフィ像 ——非典型例を中心に——

伊藤 悟志 福本 光孝 吉村 尚子
北村 江理 吉田 祥二 (高知医大・放)
赤木 直樹 (同・放部)

Sarcoidosis は、原因不明の多臓器肉芽腫性疾患であり、両側肺門リンパ節腫脹、肺、皮膚、眼病変をみることが多い。Ga-scinti では肺門部、縦隔への胸郭リンパ節、涙腺、耳下腺への集積が典型的であるが、経験した非典型例(肝門部リンパ節、上下眼瞼結膜、肺野結節、脾臓への⁶⁷Gaの集積を認めたもの)を文献的考察を加えて報告した。⁶⁷Ga は必ずしもすべてではないがその侵襲臓器に集積が認められるため、全身scanは他のmodalityおよび肉眼的所見を併用しての侵襲臓器の同定に有用であり、集積度は活動性をよく表し治療効果の判定に有用である。

18. 原発性肺癌における^{99m}Tc-MIBI の描出能 ——²⁰¹Tl-chloride との比較——

山本 由佳 川崎 幸子 西山 佳宏
福永浩太郎 瀬尾 裕之 高島 均
田邊 正忠 (香川医大・放)
松野 慎介 (滝宮総合病院・放)

肺癌34例の^{99m}Tc-MIBI (MIBI) の腫瘍描出能をTlと比較検討した。撮像方法は2核種同時収集法にてplanar像、SPECT像を行い、腫瘍と健側肺にROIを設定しT/N ratioを算出した。またRetention Indexも算出した。SPECTによる陽性率はTl 97%、MIBI 76%、T/N ratioは、Tlは 4.0 ± 1.7 、MIBIは 2.7 ± 1.1 で、TlはMIBIよりも統計学的に有意に高集積であった。Tlでは、76%がdelayed imageでカウント比が上昇し一方、MIBIでは70%にwashoutを認めた。そのうち扁平上皮癌では、10例中10例ともwashoutを示した。Tl、MIBIの集積程度は、治療効果をよく反映していた。